

株式会社 丸松齋藤商店

DX宣言書

2026年4月20日
株式会社 丸松齋藤商店
代表取締役社長 齋藤 栄喜

□ 経営理念

地域を支え、地域に愛される挑戦者であり続ける

□ DXビジョン(2～3年後にありたい姿)

- ◆ リアルタイムな情報共有体制を構築し、必要な情報を迅速に活用できる環境を整えることで、生産性を向上させます
- ◆ 積極的なDX推進によってデータに基づく経営判断の強化を図るとともに、社会の変化に対応しながら成長し続ける企業を目指します

□ DX戦略・施策

➤ フェーズ1(現在～2026年9月)

戦略 「情報共有の活性化に向けた準備」

- 施策
- ・リアルタイムな情報共有体制の構築に向けて、現状の業務プロセスやツール・システムの利用状況を整理するとともに目指す姿を定義
 - ・取組施策を整理し、優先順位を設定のうえDX実行計画を策定
 - ・DX実行計画に適したシステムの導入を検討・選定(外部システムの導入可否判断等)
 - ・生産者へ付加価値を提供するため、営農指導に関するYouTube配信等、若手社員を中心に地域に特化した情報発信を推進

➤ フェーズ2(2026年10月～2028年3月)

戦略 「情報共有体制の構築」

- 施策
- ・導入したシステムにデータを蓄積し、データ分析・活用に向けた土台を構築
 - ・生成AI導入・活用を進め、営業活動や経営判断に活用できるデータ分析環境を整備
 - ・過去の販売データを活用し、顧客毎の適正価格を判断するシステムの導入を検討
 - ・社内DX推進への理解を深めて定着化を図るため、社員向け研修会等を開催

➤ フェーズ3(2028年4月～2029年3月)

戦略 「データ活用による営業力向上と経営の高度化」

- 施策
- ・販売管理・在庫管理等の業務を担える人材を育成
 - ・蓄積した顧客情報や農地ごとの生育データ等を分析し、作物の生育状況に応じた資材需要を予測する等、タイムリーな営業活動を展開
 - ・地域に特化した情報と全国的な収量予測等の情報を踏まえて収益性を多角的に分析し、販売の価格やタイミングについてデータに基づいた迅速な経営判断に活用
 - ・近隣地域の同業他社との情報共有を通じてネットワークを強め、協力体制を構築

□ DX推進体制

- ・代表取締役社長がDX推進における実務執行統括責任者を務めます
- ・DX推進チームがDX戦略実行の中心的役割を担います

□ DX推進目標

- ・DX実行計画策定 : 完了(～2026年9月)
- ・リアルタイムな情報共有体制構築 : 完了(～2028年3月)
- ・自社肥料販売の地域シェア : 2025年度比 10%増(～2029年3月)